

実践キャリア・アップ制度

国連環境計画・金融イニシアティブ
特別顧問 末吉竹二郎

第2回「カーボンマネジメント人材WG」に寄せて

<意見>

大切な第1回と第2回を早々に欠席し申し訳ありません。
議論に参加するに当たっての思いを少し申し述べます。

1. 共有してほしい危機感

実践キャリア・アップ制度は個人の働く能力開発に関わることですが、こと「カーボンマネジメント人材」に求めたいのは、地球温暖化への認識とそれへの危機感を世界の人々と共有することです。単純に次の仕事を得るための技術の磨きでは不十分と考えます。

2. 2つの目標

本制度は大変素晴らしい取り組みと受け止めています。いつも次の二つの目標を持ちつつ、そのバランスをよく取るべきと考えます。

① 短期目標

いま多くの日本人が職がなく困っています。その多くが本人の能力と求められる能力のミスマッチから発生しているように見受けられます。失業問題の速やかな解決に少しでも役立つ実践的な制度を狙うべきと考えます。

② 長期目標：

21世紀の地球社会は間違いなく「持続可能な社会」に向かいます。

加えて、日本は「少子高齢化」という人口問題を抱えています。願わくばこの2つの構造変化に対応しつつ日本人の暮らしを支える経済を創ることに役立つ制度であってほしいということです。恐らく21世紀の日本人の「職業観」や「職場観」は相当変化を余儀なくされる筈です。日本を低炭素な経済や低炭素な社会に転換させていくには、日本人の働き方に「グリーン革命」を起こすことなどが必要となって来るのではないのでしょうか。

3. 忘れてはならない視点

① 世界と共有

いま国際社会では21世紀社会を動かすための新しい理念や概念、規制やルールといったものが新しく生まれ始めています。更には、社会通念や規範、あるいは新しい価値観さえも生まれ始めています。本制度で学ぶ方々は是非こういった「物を考えるベース」を世界と共有する機会を与えられるべきと考えます。

② 男女協働

21世紀社会は女性が男性と対等になる時代です。本制度はそのための一助となるような役割を持つべきと考えます。

以 上